

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026年1月15日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	政治経済学部政治学科
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2025年12月18日
明治大学卒業予定年月	2028年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ
留学先大学	アーカンソー州立大学(日本語名) Arkansas State University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2025年8月～2025年12月
留学先大学で在籍した学年	1年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4月上旬～7月下旬 2 学期: 9月中旬～2月上旬	1 学期: 8月～12月 2 学期: 1月～5月 3 学期: 4 学期:
学生数	11592人
創立年	1909年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (USドル) (1 現地通貨 = 150 円)	B 日本円	備考
授業料	0	0 円	
宿舍費	2835ドル	円	
食費	1800ドル	円	
図書費	400ドル	円	
学用品費	200ドル	円	
携帯・インターネット費	200ドル	円	
現地交通費		円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	0	0 円	
旅費(留学中)	2300ドル	円	
被服費	20ドル	3000 円	
医療費	0	円	
保険費	400ドル	円	形態: 大学指定留学生用保険
渡航旅費		400000 円	
ビザ申請費		55000 円	
雑費	200ドル	円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	8355ドル (=1253250 円)	468000 円	
総計(A+B) ※円		1721250 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地：羽田 目的地：メンフィス 経由地：シカゴ

復路 出発地：メンフィス 目的地：羽田 経由地：ミネアポリス

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社：JAL 料金：210000 円

復路 航空会社：DELTA 料金：200000 円 ∴合計：410000 円

航空券購入方法

旅行代理店(店名：)

インターネット(サイト名： JAL, DELTA 公式)

その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

学生寮(寮の名前：) アパート ホームステイ

2) 部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4) 住居を探した方法：

現地の学生専用掲示板

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

住居の施設は日本と同等に近いです

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: _____)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: _____)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

特になし

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

イエローモバイルを契約し、eSIMを利用した

5) 現地での資金調達はどうに行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

日本で利用している visa のネットバンクから、現地の ATM で引き出しをしていた。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。

特になし

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
12 単位		<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
SOCIAL THEORY		社会理論
科目設置学部・研究科	Humanity and social science	
履修期間	4 か月	
単位数	3 単位	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 50 分が 3 回	
担当教授	Banafsheh Aghayeeabianeh, Ph.D.	
授業内容	各時代の社会学者の理論を分析、比較する	
試験・課題等	週に 1 回、レジュメの作成とオンラインでのテストを受講する	
感想を自由記入	ディスカッションはかなりスピードが速く、なかなかついて行くのが難しかったです。教科書の読書量もとても多いため、英語力と社会学の知識に自信がある人の受講をお勧めします。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
The United States Since 1945	1945年以降のアメリカ
科目設置学部・研究科	Humanity and social science
履修期間	4か月
単位数	3単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	ディスカッション(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Pamela Hronek
授業内容	戦後と冷戦期のアメリカの変遷について教授の説明とディスカッションを並行して学ぶ
試験・課題等	週一回程度、授業、または各自で視聴するドキュメンタリーについてのエッセイの試験を行う
感想を自由記入	内容は難しいが、教授がとてもやさしい方で、配慮をしていただいた。教授は1945年生まれの方で、実体験を交えながらアメリカの歴史について語ってくれた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Introduction to comparative politics	比較政治学入門
科目設置学部・研究科	Humanity and social science
履修期間	4か月
単位数	3単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、グループワーク(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に75分が2回
担当教授	Dr. Andrea Junqueira
授業内容	各国に政治システムを比較しながら、政治理論を学ぶ
試験・課題等	プレゼンが楽器に1回割り当てられる。期末試験あり。
感想を自由記入	グループワークでは、ネイティブとグループを組んで課題に取り組み、なかなか力にならない、ついていけないと感じることばかりでした。こちらも、英語にかなり自信がある方の受講をお勧めします。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Religion and Politics	宗教と政治
科目設置学部・研究科	Humanity and Social science
履修期間	4 か月
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回
担当教授	Rollin F. Tusalem, PhD
授業内容	世界の、政治と宗教の結びつきについて、おおくのしりょうやで一たをさんしょうしながら理解していく
試験・課題等	中間試験、期末試験と 2 回のレポート
感想を自由記入	基本的に教授がしゃべり続けるだけで、レジュメやスライド等もないため、ついて行くのがかなり難しかったです。受講にあたっては、英語力のみならず、正解各国の週 s 教についての背景知識が必要です。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	留学に関するイベントに参加、英語の授業の履修、ielts 対策
	8月～9月	ielts 受験
	10月～12月	留学先決定、申し込み
留学開始年	1月～3月	短期留学、英語力の向上
	4月～7月	航空券、ビザ、その他留学準備
	8月～9月	渡航、留学開始
	10月～12月	留学、帰国
留学/帰国年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生活全般等について、アドバイスを記入してください。

自分はもともと留学に興味がありましたが、せっかくなら子供のころから勉強してきた英語を使って生活してみたいと思い、英語圏の国への留学を決断しました。その中でも、比較的慣れているアメリカ英語を選択し、またせっかくなら世界一の大国でありアメリカへの留学をしたいと思い、アメリカ留学を選びました。自分はieltsのスコアが申し込み時点では低かったため、選択肢が限られていましたが、観光地などが多くなく、アメリカの生活そのものを体験できる、比較的辺鄙なアーカンソー州を選びました。

自分の交換留学は、つらいことばかりでした。皆さんも容易に想像できると思いますが、今大学で受講している授業を、明日から全部英語で受けろと言われてたら、そんなの無理だと思う人が多いと思います。日本の授業は一方通行の講義形式が多いですが、アメリカでは教授と学生を交えてのディスカッションやグループワークがとても多いため、ごまかしがききません。自分は1学期間の留学でしたが、最後までついて行くことはできませんでした。

交換留学は、決して英語力を伸ばすためのものではありません。あくまでも英語力が十分である人が、ネイティブと同じ環境下で英語を使って様々な学問を学ぶための留学です。もちろん、授業のすべてをネイティブ同等のレベルでこなすことを要求されるわけではありませんが、そういう環境の下でキャンパスライフを送ることを分かっているほしいです。これを読んでいる方の中には、すでに留学が決まっている方、まだ決まっていない方がいると思われると思いますが、毎日少しずつでも、英語力の向上と、自分が学びたい学問の学習を継続的にやっていくことをお勧めします。